

広報広聴常任委員会

令和6年6月27日（木曜日）

開会 午前11時00分

閉会 午後 0時06分

1. 議会カフェの活動方針について
2. 町民からの意見の取扱いについて
3. その他

○出席委員（12名）

1番	伊藤	昇	君	2番	河野	文彦	君
3番	高橋	邦雄	君	4番	河野	淳	君
5番	山田	誠	君	6番	野口	周治	君
7番	斉藤	優香	君	8番	千葉	圭一	君
9番	佐々木	修	君	10番	加藤	進	君
12番	東	隆一	君	13番	松田	兼宗	君

○欠席委員（1名）

11番 山本裕子君

○職務のため出席した者の職氏名

事務局長	小田桐	克幸	君
庶務係	木村	友理香	君

開会 午前 1 1 時 0 0 分

◎開会・開議の宣告

○委員長（斉藤優香君） ただいまの出席委員数は12名です。定数に達しましたので、広報広聴常任委員会を開会します。

ただいまから本日の会議を開きます。

本日の会議日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎議会カフェの活動方針について

○委員長（斉藤優香君） 初めに、議会カフェの活動方針についてを議題とします。

まず、お手元にお配りしました資料の1を見ていただきたいと思います。今回ちょっと急に始めてしまったというのか、7月7日にもう食KING市がありまして、去年、おととしくらいからこの食KING市に参加させてもらって議会カフェを開催していました。今年度どうするかということを皆さんで話し合っていただきたいと思いますというのがまず1つです。

○委員（河野 淳君） ちょっと前回1回しか自分は参加させてもらわなかったのですが、ちょっとやり方というか、実際イベントに来ている方自体が議会目的で来ているわけではないので、集まりが悪いのと、何というのですかね。あまり趣旨を分かっている部分が多いので、やる活動に対しての部分が少ないのではないかなという感じがしています。事務局の方も毎回テントの設営とか撤収とかをされていて、日曜日4回持っていかれるというのもやっぱり大変だということもあるので、全4回全て……5回か、3回か、出るというのもちょっとどうなのかなという感じはします。ただ、一般になじみのない方が取り組むという部分では1回とかはいいとは思いますが、毎回出ても、私も出ていないときにある方に出ていないよねと、何かありましたかと言ったら、何もないのだけれども、出ていないから活動していないのかなとかと言われてしまって、何かその辺を考えると、やっている感を出しているためだけにいるのも何かちょっとどうなのかなという、ちょっと何か変な言葉で申し訳ないですが、ちょっとそういう感じは受けました。

○委員長（斉藤優香君） ほかに何か誰かご意見ある方いませんか。

○委員（山田 誠君） 今言ったとおり、人の集まりもあまりよくないけれども、やっぱりPRが足りないと思うのだ。防災無線を使いなさい。委員長、防災無線。

○委員長（斉藤優香君） 議員が議会カフェをやりますというのを防災無線で。

○委員（山田 誠君） そうそう、そうそう。

○委員長（斉藤優香君） 今回なぜ急いでいるかという、もう本当、今日ぐらいまでには、ポスターには入れてもらうことになっているので、その有無を決定しなければ、ポスターも入らなくなってしまって。なので、急いでいたのですけれども。

○委員（山田 誠君） いつも私言うのだけれども、広報だとかああいうのは、見る人は分かるけれども、見ない人は見ないのだ。だから、載せたからいいというのではなくて、

無線は聞きたくても聞きたくなくても何だか聞こえるわけだから、そういうようなことを徹底してやったほうがいいと思う。やるのであればだよ。皆さんの意見を聴取したいと。何かあったら相談してくださいってやればいいのか。

○委員長（斉藤優香君） そこまでの内容を言えるかどうか分からないので。

○委員（山田 誠君） やればいいでしょう、何も遠慮しないで。

○委員長（斉藤優香君） ちょっとこれは相談、要相談が……

○委員（山田 誠君） そのための無線なのだもの。何も遠慮することない。議会活性化のためとやればいいでしょう。

○委員長（斉藤優香君） あとどなたかご意見ありませんか。

ちょっとその後にもなるのですけれども、すみません。これ結構町民の方からは喜ばれているのか、この三業まつりも参加してもらえないかという行政側からの要請がありました。今回、三業まつりも下の段になっているのですけれども、ぜひ議会さん、参加してもらえませんか、三業まつりもという要請があったので、この後にまたお話になるのですけれども、そういう意味でこの三業まつりは入っています。

○委員（東 隆一君） これは、行政のほうからそういう要するに要望があったということの話なの。

○委員長（斉藤優香君） 三業まつりの実行委員会からです。間違えました、すみません。

○委員（東 隆一君） 実行委員会から。ということは、町民がそういう意見を言う場所を欲しいということを言われているわけですか。

○委員長（斉藤優香君） それは、どうかは……

○委員（東 隆一君） だって、私が言うのは、ここ4年間ずっと私が入ってからやっているのですけれども、来る人はほとんど一緒、同じ人ばかりなのです。それで、結局議員も出る方が要するに何人いるのかということで、出ても途中で帰る方もいるし、前回ある議員から、きちっとあの場所にいなければ駄目でしょうということで、結局前回は私は、前回というか、あの場所にはいたのですけれども、結局いない人は出歩いているわけですよ。そうしたときに、そこで要するにあそこに、あのテントに来る一般の町民が来たときに誰も今度是对応のしようがないわけですよ。ですから、本当にそこで何人ここできっちり人数を区分けして、何人そこは必ずあの場所にいなければ、町民がそこに入ってきたときに対応のしようがないわけですよ。みんなどこかずっと出歩いてしまって、誰もそのテントの中にいませんよ。そのときに、要するに3人も4人も町民が来たときに、1人では対応できないわけです。それは、前にも言ったはずなのです。要するに肝心の委員長がきちっとその場所にいなければ駄目でしょうという部分があったのですけれども、結局はそのところへ要するに意見を聞くにしてもなかなか1人では3人も4人も対応できないわけです。だから、そのところをどういうふうにするのかというのも考えながら、やるのはいいのですけれども、やるのだったらはっきりその目的、要するに町民の意見を聞く場所だということで議会カフェをするのですということをはっきりうたってや

るのだったらいいですけども、ただ議会カフェをやりますよと言ったって何を、要するに町民にしてみれば、議会カフェって何という話になって、皆さんの意見をお聞きますと。その場を設けますというのは、きっちりしたものをつくる。要するに掲載するのだったら掲載しておかないと、ただ議会カフェと言ったって、こっちは議会カフェ、そういう町民の意見を聞きますよと言ったところで、行ったところ誰も人がいないと。それってどうなのという方もいらっしゃったのです。ですから、その部分ははっきりもしもやるのだったらやるで、やると決めているわけですから、そのところはきっちり要するに線引きをしておかないと、またやったわ、開催したはいいものの、結局誰もその会場には議員がいないで、店をぐるぐる、ぐるぐる回ったり、それも議会の活動でいいのかもしれないけれども、そうではなくて、いるのだったら、きっちり何時から何時まできちっとあそこの場所にいるような方法を取らなければ何も意味がないのではないかということです、私にしてみれば。そのところをどういうふうに考えてやられるのか。

○副委員長（野口周治君） 今、議会カフェをやったほうがいいのか、そうでもないのかという議論と、やる場合の議論がやや混ざりかけているような気がします。委員長のほうで、まずはやるほうがいいのかどうかに絞った議論に整理していただいたらどうかしらと思うのですが、いかがですか。

○委員長（斉藤優香君） そうなのです。これは……ありがとうございます。そうなのです。食K I N G市に議会カフェとして参加するかどうか、まずは続けまして、この三業まつりもあるのですけれども、実行委員会のほうから、ぜひ議会さん、出てくださいませんかという問合せがありましたので、併せて今年度議会カフェを食K I N G市でまずはやるかどうかというのを皆さんに決めていただきたいなと思ったのです。皆さん、もし意見がそこでないのであれば決を採るという形になるのかと思うのですけれども、ただやり方をちょっと変えてくれれば賛成に回るとかということがありましたら、ぜひ言ってくだされば。

○副委員長（野口周治君） 私から発言させてもらいます。先ほどから大事な点が指摘されていると私は思っていて、やった感とか、それから恐らくこれは私の推測、邪推かもしれませんが、三業まつりというのはにぎわい要員が欲しいから、こっちでも来てくれないかという部分もあるのではないかと感じます。私は、やっていますよと存在をアピールすることが悪いとは実は思いません。そういうことも必要。ただ、コアの部分としてどうやって皆さんの考えていること、希望を聞くのか。広聴の役割として考えたときに、より果たしやすいのはどういう方法かというのは考えていく必要があると。つまりやった感が出ることをやってはいけないのではなくて、それは物理的にあったとしても声を聞く場をつくることは間違っていないのではないのと。だって、そこで今の議題の本質だと思うのですけれども、その声を聞く場としてこの議会カフェ、食K I N G市場でやるのが今いいのですかということに移ることになります。

私は、過去4年間やってきて、私も1年間、基本的に全部出させてもらいました。その

中で、無駄とは思いませんけれども、この時間を例えばもっとほかの、去年は漁協、それから農協の婦人部、女性部か。青年部の皆さんの話を聞きに行ったりしましたけれども、そういうところに例えば今度は商工会のお話を聞きましようかとかありますけれども、地域に出かけて話を聞いてみるようなことにシフトしていくという考え方もあるのではないかしらと感じる。どうしても今、食K I N G市に必ず出なければいけないかという、ほかのやり方もあるのではないかと。今、立ち止まって考えられるのであれば、そういう検討をしてもいいのではないかと感じます。反対するものではないのです。ただ、今日までですから、そういう議論は間に合わないから、取りあえずというふうに議論を進めるのであれば、それはそれでいいですけども、そもそもどうなのだろうというところで考えてみてはいかがかと思います。

○委員長（斉藤優香君） いいですか、ちょっと。私としては個人、議員として、委員長としてかな。この間、当別町さんが視察に来られたときに、とつてもこの議会だよりと、あと議会カフェというのにすごい興味を持っていただいて、こういう取組をやっているのですね、こういうふうに町中に出て議員がやっているのですねというのを評価していただいたと私は思っていました。だから、こういう取組というのは、ほかではなかなかやっていないことを私たちはやっているのだなというのを感じました。だから、この中身とか、これからやり方とかというのは変えていく。その前にも議会カフェというのはやっていたのです。それは、森の公民館、砂原の公民館へ行って、来てくださいと言ってやったのですけれども、それこそなかなか来ない。やはり私たちから出向いていくというのも大事ではないかなという、文化祭のときにもブースを設けてやっていたりしたこともあるのですけれども、皆さんずらっと座って待っていられると、なかなかそこに相談しづらいという声も上がったりしていたので、それよりはもっとラフに、こんなことでも聞いていいのぐらいの感じで皆さんの声が聞けたらなというのから食K I N G市がいいのではないかなと思って食K I N G市にしたのですが、もっと違うやり方、だけれども、私たちから出向くというのは、私はその道を探していく。だから、農協とかやりましたけれども、それも継続していくけれども、それはある団体に属していないと話が聞けない。そういう団体ではない、入っていないけれどもという人たちの声も拾えるのではないかなと思うのですけれども、いかがでしょうかということなのですが。

○委員（千葉圭一君） 私は、議会カフェについては、このまま継続してもいいのではないかなというふうに思っています。何年も続いて議会カフェをやっているということは、町民の皆さんに、全部というわけにはいかないでしょうけれども、ある程度認知されているわけですから、その場で何をやっているかということも分かっているでしょうし。ただ、そこで、その場で意見を求めるとか、要望を聞くとかということについては先ほど東委員がおっしゃったように中身、それと体制の問題、それは課題として残して検討しなくてはならないでしょうけれども、継続する部分については私は賛成だということです。

○委員長（斉藤優香君） あと何かご意見。

○委員（河野文彦君） やる、やらないでいったら、私もやったほうがいいのではないかなと思うのですけれども、去年、皆さんそれぞれ活動している中で、ちょっと高橋議員、お願いあるのだけれどもと言ってくれるような近しい方、多分森の町民の中の半分もいないと思います。半分以上の方は、いやいや、議員に何か話したいのだけれども、どこでどういうふうにアポ取ってお話ししたらいいのか分からないとかという人のほうが多いと思うのです。各団体との意見交換会とかはやっていますけれども、やっぱりそういうのにも属していない方もたくさんいるし。そう考えると、こういう場を設けて、いつでもお話しに来てくださいという環境をつくっておくというのは大事なのかなと思います。

たまたまふだん来る方、そんなに多くないかもしれないですけれども、こういう議会カフェというものをやっていますよと。継続していくことで、では何かお願い事というか、そういうお話ししたいというときに、あそこに行けばいいのだというのが継続してあったほうがいいのではないのかなというふうに思うので、僕は開催したほうがいいと思います。それが食K I N G市なのか、昔みたいな社協でやるのか、それは別として。ただ、食K I N G市でやっていくというのは、まあまあいいのではないかなと。社協でやってもやっぱりあまり人は来ませんでしたよね。というか、あそこでやっているのを知らないの、ほとんど。それであつたら、食K I N G市のほうがまだ、やっているのを知らずに食K I N G市にやってきて、ああ、議会でこういうことやっているのだというアピールにもなるし、継続は力だと思います。

○委員長（斉藤優香君） あとは皆さんどうでしょうか。

○委員（佐々木 修君） 私も継続できるのだつたら、継続したほうがいいと思っています。これイベントを主催する側というか、実行する側にしてみると、どうやっても人さえ来てもらわなければ話にならないわけ。私も過去にずっとこういうイベントに出店していたのです。何よりもありがたいのは、人が来てくれることなのです。確かにブースずっと並んでいて、関心のあるのと関心のないものとあります。物販行為だから、物を買えるものと買うのではなくて眺める程度のものもありますけれども、そしてましてや議会のほうなら、何も物珍しいものがあるわけでもないですから、話したいことがあれば来る人がいるというだけのこともかもしれないけれども、実行する側にしてみると、いろんなテントを張って、いろんな人が集まって、人がやっぱり集まってもらう。ここがやっぱり欠けていたのなら、本当にわびしいイベントになってしまうわけ。だから、ましてやこれまでのいろんな場所をやってきてみても、うちのほうの議会カフェがお祭り騒ぎみたいにわいわいってなるわけがないわけです。だから、そこに、東さんのような意見もありましたけれども、そのときは誰もいなかったら、ちょっとおいおいと携帯でバックさせるとか、そういう方法だってあるわけだから、ぜひとにかくどうやったって出向いて行って、出向いて行って私どもの活動も少しでも、1人でも2人でも理解してもらう、層を増やしていく努力は必要だなと、こう思っています。

○委員長（斉藤優香君） ありがとうございます。

ほかに意見はないでしょうか。

○委員（山田 誠君） さっき私が言ったように、そういう無線を使った広報でこういうことをやるよというようなことと、その質問の内容によって一般質問に取り上げると。そして、やったときに加藤進からの質問をやりますよと。本人にも伝えれば、カフェってすごいなと、こういう印象はあると思う。そういうことをするとか、そういう手だてを組んでやったほうがいいかなと。私個人的には、この活性化広場でやっている食K I N G市は、あまりお客さんが来ていない。人数が少ない。だから、本心はあまり効果あるのかなという気はしています。だけれども、駄目だ、いいというのはやった結果の話であって、だからそういう手だてを踏んでやって駄目なら仕方ないと思うけれども、そういうことを目標にしてやったほうが町民の意識もあるし、議会のほうにも問合せすれば、こういうふうになるという意識を町民に持たせれば、議会って何やっているのかなと。さっき話に出たようなことも_____するような活動をしていくべきだと、私はそう思っています。

以上です。

○委員（高橋邦雄君） 私もこの議会カフェ、食K I N G、三業まつりでやることに對しては賛成です。ただ、この開催回数です。これを全てをやるというのは、皆さんがそれで全てやったほうがいいというのであれば、それでもいいのですけれども、やっぱりおのこの予定とか仕事もされている方もいますので、ましてや出店される方がもしかいるのであれば、そこの部分で先ほども中身のお話も出ていましたけれども、相談者が来て議員がないとか、そういうような現象も起きるだろうし、そこの部分、まず回数的なものの考慮をしたほうがいいと。

あと、中身はちょっと今話すべきではないかもしれないのですけれども、例えば相談する議員が少ないのであれば、議会カフェ用に意見箱を置いたらどうですか、話せない部分が多分、町民はあると思うのです。その部分で、話せないことの見解として聴取する形を少し取ってあげれば、まず話をしなくても、ただペーパーに書いて、こういうことを要望しますぐらいは書かれる方ももしかしたら存在するかもしれませんので、そういうような考え方も今後やるのであれば持ったほうがいいと思います。

○委員長（齊藤優香君） ありがとうございます。

○委員（伊藤 昇君） 私も山田委員のおっしゃった一般質問につなげていくと。広聴活動ってあまりないですね。やっぱり広聴活動って必要なことだと思いますし、議員が出向いていく。そこで、もう一つ踏み込んで、その所管、所管の例えば総務経済の常任委員会、民文あると思うのです。内容等もその2つに分かれて、きっとご相談があるのだろうと。ですから、そこの所管のほうに下ろして、そしてこれをどう取り扱っていくか、どうお伝えをしていくか、そういうことをやっぱりもんで広聴活動に、その次のステップにどうつなげていくか。そういうことも考えていけば、町民の人にもやはり理解をされていくのかなと。

それと、これだけ見ますと砂原地区がないのです。ですけれども、やっぱり町内全域お

話を聞くという。イベントはありますので、逆に言ったらもっと増やしても私はいいのではないかなというふうに思っているところです。

以上です。

○委員長（斉藤優香君） ありがとうございます。

○委員（佐々木 修君） 去年、農協の青年部でしたかね。夕方、夜でしたか、やった席の話、農協のメンバーから出た案件があるので、私ちょっと気になっていることがあるわけ。非常に農業振興に重要なことだったので、しかしそれ聞きつ放し、別に取り組んでいないわけ。ただ、案件が非常に大変な案件だから、私も簡単に、安易に、例えば担当課に言って、こういう発言あったのだけれどもという、話すレベルの話を超えていつている案件だったと私は判断しているのです。だから、そのままストップのままなのだけれども、これからだっているんな案件が出てくるとすれば、そういう重要な案件というか、放置、投げておけない案件はどうするのか。ここの部分、ちょっと整理したいと思うのね。

○委員長（斉藤優香君） それは、その次でちょっとお話ししたいなと思っていて、そういう仕組みをちょっとつくっていかないとならないなというところまで来ているなと感じていました。去年の農協のお話は、全で一応農林課なりなんなりには、こういう話が出ましたということはお伝えしていました。委員会としては、こういう話が出ましたということとは伝えてあります。その後というのは、ちょっと確認はしていないのですけれども。

では、まずこの食K I N G市をやるかやらないかで採決、手を挙げる、どうですか。

○議会事務局長（小田桐克幸君） 可能であれば、そこまで……

○委員長（斉藤優香君） やらなくても今……

○議会事務局長（小田桐克幸君） まとめられればいいかなと。

○委員長（斉藤優香君） 一応大体の方の意見は聞いて、やる、続けていきたいというお話だったような気がするのですけれども、それでよろしいでしょうか。

○委員（東 隆一君） 小委員会のほうで何か意向をきちっとまとめて広報委員会に諮るという話をしたほうがよかったのではないの。

○委員長（斉藤優香君） 小委員会で決めてしまってもあれだったので、これは皆さん参加なので、一応皆さんの意見を聞いて。小委員会で話しましたことを次に、この議会カフェ全般、出張議会カフェにも関係するので、皆さん関心があるので、この資料2のほうと、もう一枚と栗山町の議会だよりがあるので、それでお話しさせていただきますと今回視察研修に行ったときに……

○委員（東 隆一君） 議会カフェのほうはどうなの。

○委員長（斉藤優香君） 議会カフェはやる。

○委員（東 隆一君） やるのですね。

○委員長（斉藤優香君） はい、やります。皆さん、よろしくお願いします。

三業まつりは……

（何事か言う者あり）

○委員（松田兼宗君） ちょっと皆さんの意見を聞いていて思うことが1つあって、ちょっとしゃべらせていただきたいのですが、まず議会カフェをやったというのは私なのです、やり始めたきっかけというのが。もともとは浦幌でやっていた議会カフェを、それをまねた形で、ただまちかど議会ってやっていたのです、あっちは。それを中で、どこか町の1か所を決めてやって、社協を使ってやったのが始まりなのですが、その中でやる、そのときから話はあるのですが、人数が、参加する人が少ないとか、固定化してしまうのですよ、どうしても。それは、その町の民党だからしょうがないのです。そして、何が問題なのか、少ないことが何が問題なのか、よく分からないのです、私に言わせると。というのは、議会というのは動いているのですよ、常に。それに対して、それを見ている人たちはいろいろ言いに来るわけです。それが民意を反映することなのではないですか。関心がある人しか来ないのだから、それは仕方ない話で、どれだけそういう関心を持ってもらう機会を設けるかどうかの話なのです。だから、人数が少ないとか、全然問題な話ではなくて、同じ人がいても全然問題ではないのです。議会というのは常に動いていて、行政は動いているわけですから、それについて文句を言いに来るわけです。だから、そういう場を設けておくというのがいかに重要かと私は認識を持っていますので、この議会カフェというのはなくすとかという話、やり方についてはいろいろあってもいいだろうし、食K I N Gだとか当然全部、三業、ここに書いている全部は出るべきだと思うし、それが広報の、広聴の役割なのではないですか、議会の。と私は思います。

以上です。

○委員長（斉藤優香君） ありがとうございます。

いいですか。それでは、三業まつりも参加してもよろしいでしょうか、皆さん。

（「はい」の声多数あり）

○委員長（斉藤優香君） では、食K I N Gと三業まつりで今年度は4回ということで、ちょっと毎月のようにになってしまうのですけれども、皆さん体調を整えて、よろしくお願いします。事前に近づきましたら、出席者のほうを確認してまいりたいと思いますので、できればなるべく多くの方ということで全員参加がよろしいのですが、なかなか日曜日ということもあり、都合あると思いますので、事前に日程だけはお知らせしておきます。

その次……

○委員（河野文彦君） 今回は、この資料1にある部分に関しては全て開催しようということで確認取りたいのですけれども、先ほど伊藤委員からあった例えば砂原地区の部分、ふるさとまつりでしたっけ。ふるさとまつりは、外ヶ浜から来て対応等であれなので、もう一つ、何でしたっけ。恋来いまつりだとか、何かほかにもイベントありますよね。だから、その辺も検討していったほうがもういいのではないかなと思うのですけれども。

○委員長（斉藤優香君） そうですね。

○委員（河野文彦君） そのふるさとまつりだって、議員全員がゲストの対応をしないで半々でもいいだろうし、可能な限りやっぱりこういうのは開催したほうがいいと思うので、

そこも検討してもらいたいと思います。

○委員長（斉藤優香君）　ありがとうございます。

今、ちょっと出まして、次の出張議会カフェなのですけれども、前年度は農協と漁組に若手の方たちということでお話をさせていただいたのです。今回、商工会議所のほうから依頼がありましたので、今回、今年度は会議所とさわらの商工会にもこれからなのですけれども、いかがでしょうかとって、できれば若手のもしかしたらなり手になるのではないと思われるような方たちとお話ができればなと思いますので。それと併せて、ちょっと砂原のお祭り、人が集まるときに議会カフェをやらせてもらえないかということを相談しに行きたいと思います。これ商工会議所と出張議会カフェをやるというのは、皆さんよろしいでしょうか。

（「はい」の声多数あり）

○委員長（斉藤優香君）　それと、私思っているのですが……

○委員（山田　誠君）　上の連中はだめだよ。

○委員長（斉藤優香君）　青年部。

○委員（山田　誠君）　青年部、婦人部。

○委員長（斉藤優香君）　婦人部。

○委員（山田　誠君）　でないと駄目だ。上と話したって話にならない。駄目だ。

○委員長（斉藤優香君）　一応要望は、こちらとしては若手の方ということで要望を出しておきます。

あと、若手ということで森高校とか森中学校の方たちとお話する機会を設けてはどうかと思ったのですけれども。

○委員（高橋邦雄君）　教育関係ちょっと今お話が出たのですけれども、7年前ですかね。以前、実は議会のほうに生徒会執行部の方が約7名ぐらいかな。まだ三浦さんという副議長の方がいられるときにちょこっと意見交換をしたのです。要は、テーマは森町の未来についてということをやらせていただいたのですけれども、今回森高校ということは、では議員が高校のほうに行きましようということなのですよ。そういう趣旨なのですよ。

○委員長（斉藤優香君）　どちらでも、来ていただく、議場を見ていただくとか、やり方はあれなのですけれども、まだ中身は全然できていないのですけれども、そういう機会を持ったかどうかという提案です。

○委員（高橋邦雄君）　例えばもし我々が高校のほうに足を、向こうに行くとなれば、時間的に3時過ぎからしか多分対応できないと思うのです。対象がどういうふうにするのか。1年生は今76名いるのですけれども、その全生徒を対象にしてどのような話を持っていくのかというのがありますので、もし高校でやる場合は教育の場ですから、いろんなちょっと動きもあるので、事前にやっぱりやり取りしていただかないと、ちょっと難しいのではないかなという部分がもしかしたら出てくる可能性はあります。ここは道立高校なので、で

できれば中学生、森中、砂原中、こういう子供たちがどういうふうに未来の森町をどのように考えているのかという話し合いは、ぜひ高校も含めて僕はやっていくべきだとは考えております。

○委員長（斉藤優香君）　ここで高校なり中学校なりに出張議会カフェしたいということであれば、その後の打合せはしたいというか、するということになれば、できるかできないかは別としても交渉しに行ってみようとは思っています。なので、やり方とか、時間とか、そういうのもまだまだこれからなのですけれども、そういう若い人たちと議会をつなげる何か取組ができないかなと思った提案なのですけれども、いかがでしょうか。

○委員（高橋邦雄君）　もしできれば、やるのなら高校単体ではなくて中高一緒にタイミング的にやると、やっぱり中学生の年齢の考え方、ましてや高校生の年齢の考え方ってかなりちょっと差がある話で、できるのであれば同じタイミングでちょっとやるのが面白いのかなと僕の中では思っています。ましてや中高を別でやると日程的にもやっぱり2つ取らなくてはいけないので、学校も1年間の授業のこまっておりますから、タイミングもちょっと厳しくなるのではないかと思いますので、できれば協働で何かできるような提案でも進めたほうがいいのではないかと思います。

○委員長（斉藤優香君）　ありがとうございます。どうでしょうか。これは交渉に入ってもいいですか。この後、そういう中高生と出張議会カフェをしていいとなると、この後の細かいことはそれこそ小委員会のほうで詰めていって、皆さんにまたお知らせするという形になると思うのですが、どうでしょうか。

○副委員長（野口周治君）　ここでは、やり方を後で検討することとして、そういうことをやったらいいかどうかだけ委員長がおっしゃったようにまず議論したらいいいのではないかと思います。やり方については、私たちの意向もありますけれども、先方の考え方もあります。例えば生徒会なり、先生方の考えもあるものですから、それは相談しながら形をつくる、やる場合には。まず、やったらどうかのことに絞ってみんなで話をしてみたいかがですか。

○委員長（斉藤優香君）　どうでしょうか、皆さん。

○委員（松田兼宗君）　中学、高校でカフェをやってどうするのと思っているの、私は今話を聞いていて。というのは昔、議会カフェではなくて模擬議会をやっていたのです。そのほうがむしろいい。というのは、教育的な意味でもそうだし、高校になると実際にもう選挙権を持っている人もいるわけです。とすれば、そういう場面というのはつくってやるべきだと思うし、それが教育的な部分で高校の社会の教育ではないけれども、議会ってこういうような形でやっているのですよということを体験させることがむしろ重要なのではないかと私は思いますけれども。だから、議会カフェの対象からは外すべきだと思いますよ、高校。だって、行って何を話しするのですか。と思うので、事前に資料を渡して、テーマを決めて、それで話しするのならまだしも、やり方の問題もあるのだけれども、ほかの議会カフェと全然違うと思いますよ、中学、高校の場合は。だから、むしろ模擬議会

をやるべきだと思いますけれども。

○委員長（斉藤優香君） その辺りも含めて先方と話し合いで、模擬議会のほうが先方としてやりたい、それとも普通に議員の人ってどうなのだろうというお話をしたいとか、相手もあるので、その先は別に決めていこうと思うのですが、まずはやるかやらないかというところで皆さん。

○議会事務局長（小田桐克幸君） この辺は決めないと駄目だけれども、この部分については1年スパンで考えても……

○委員（伊藤 昇君） 事務局のほうからちょっとお願いあるのですけれども、住民と森町議会との意見交換会実施要領というのがついていますよね。これに対象団体というのが書いておりまして、学校がここには入っていないのではないかなと私は思うのです。事務局を有している団体と。

○委員長（斉藤優香君） それまたちょっと後でもいいですか。

○委員（伊藤 昇君） 意見交換会だとすれば、これを基にしなければ駄目なのかなと私は思うのですけれども。

○副委員長（野口周治君） それも含めて議論したいのであれば、今そういう提案をした上で、まずはやる、やらないといったときに話しましょうとさばいてもらうのがいいのではないかと思います。

○委員（河野 淳君） 基本的には、有権者の意見交換会が意見交換会の趣旨だと思うのですけれども、学校は将来の有権者に対する意見交換会だと思うのですけれども、ただ中高でそこまでの意見を交わせる人が何人いるかという、なかなかそういう対話方式になると難しいと思うのです。ほかの議会でやっているのは、大体議会の仕組みを説明して理解を深めてもらうという中での多少の意見交換とかはあると思うのですけれども、実際の経済団体とか加盟団体の意見交換会と同じようなやり方だと、ちょっとうまくないと思うのです。ほかの松田議員とかも言うように議会カフェという扱いではなくて、別な取組として将来の有権者に対して議会の意義について例えば説明したりとか、疑問があれば回答していくというのは、すごくいいことだと思うのです。こういう活動をしているよというのはいいことだと思うのですけれども、議会カフェの取組、扱いで学生と話すというのはちょっとおかしいというか、論点がずれていくと思うのです。過去に子ども議会をやったときも、子ども議会の話がもう決定事項みたいな感じでずっと話が進んでいったことが過去にはあって、そこからもう脱却できないような形にもなったのですけれども、そういう話ではなくて、もうちょっと議会の活動を知ってもらうですとか、いろんな疑問に答えるという別な取組として広報活動としてやるというのも何かあるとは思っているのですけれども。

○委員（千葉圭一君） 今の意見なのだと思いますけれども、同じような意見なのだと思いますけれども、やっぱり学校は教育の場というふうに考えた場合、意見というよりはこういう議会とか議員とか、そういった政治とか社会に関わるお話をした上で、理解をしてもらった上での質

疑応答というのが本来子供たちにこの今の議会とか、森町の議会とか、政治というか、そういうものを理解してもらう場にしたいと思うのです。それで、あまり議会カフェという言葉にとらわれ過ぎないで、それはそれで別の項目でちゃんと設けていって、意見交換ではなくて。そういうふうに持っていけば、スムーズに行くと思うのです。だから、今回のこの議題に議会カフェって出るからややこしくなるのであって、それはそれでまたやる、やってもいいのだけれども、ちゃんと教育という物事の考え方で向こうの責任者と教育委員会を交えて打合せしていったほうがいいのではないかなというふうに思います。

○委員長（斉藤優香君） ありがとうございます。

皆さんの意見をまとめると、今ここでは決めずに、相手方のどういうものをもってもらいたいかなということも聞きながら、この小委員会のほうで煮詰めていって、こういう形が望んでいますといったところで皆さんの意見を聞くほうがいいのかなと。

○委員（松田兼宗君） さっきから小委員会という言葉が出ているのだけれども、小委員会って議会だよりをつくるための小委員会で、そういうのを議論する場ではないはずですよ。何で小委員会、小委員会って出てくるのかなと思って、不思議に思っていたのですけれども、最初から。

○委員（伊藤 昇君） 先ほど要領の話したのですけれども、これ私が言ったのは、もしそういうことをするのであれば、これは改正できますから、改正してやればいい話で。ただ、これあるものをないがしろにしてやるというわけにはいかないと思うのです。これ議会で決めたことなので。ですから、そこはやるのであれば、やっぱりそこに付加するとか、直すとかということが必要なのかなということでもちょっと言わせていただきました。

○委員（山田 誠君） それで異議なし。

○委員（伊藤 昇君） ありがとうございます。

○委員（山田 誠君） 委員長、ここの実施要領の3番に教育団体とかと書けばいいのだ。実施要領だから、何も議決も必要もない。みんながいいと言えればいいのだ。

○議会事務局長（小田桐克幸君） ここもいいと思うので、これについては、この場ではなく、継続して考えていくということで。

○委員長（斉藤優香君） まず、今回の議会カフェはやるということで、出張議会カフェも森の商工会議所とさわら商工会はやる。森高校と言ったのですけれども、これから森の学生に向けてどうしていくかということをもう一回ゆっくりちょっと考えて、相手方の意見も聞きながら、また皆さんにお話ししていきたいと思いますので、それでよろしいでしょうか。

（「はい」の声多数あり）

◎町民からの意見の取扱いについて

○委員長（斉藤優香君） 次なのですけれども、次に町民からの意見の取扱いについてな

のですが、先ほどの要領も皆さん御覧になっていると思うのです。資料2というのが今回の視察研修に行ったときの別海町の考え、別海町も意見交換会みたいのをされた後、それぞれの委員に割り振って所管事務調査として調査していくという形を取っているということと、あと栗山町なのですけれども、当日聞けなかったので、後日事務局長の方に聞いてみましたところ、年に1回、報告会をしています。それは、委員会をつくって12会場、3班に分かれて、各会場ごとにまとめて、それを提言書として議長から町側に提出する。そして、それは議会だよりに回答するという形を取っていますと、報告会の場合は。そして、一般会議というのが森町で言う出張議会カフェに当たるのですけれども、それは議員全員で参加して、意見交換なので、それぞれがその意見をもらったのを一般質問に落とし込んでいくやり方を取っているということと、あとは栗山町さんは茶話会をやっていききたいのだけれども、町民にまだ飛び込んでいく機会がなくて、議会モニターさんとだけやっていますということでした。そのときには、フリートークでやってみたいということやられているそうです。普通の議会モニターとの会議の場合は、テーマを決めてやっている。それで集約しているそうです。先ほど言われたように広報委員会、広報広聴常任委員会を広報小委員会と、あとは広聴小委員会という2つに分けて、片方は議会だよりやホームページを担当して、片方は意見集約のほうに回っているというお話でした。議会だよりのほうに、今回の5月に出たやつにそれらがどういうふうに議会だよりになっているのかというのが載っていますということで、これ抜粋なので、もしも興味がございましたら、皆さん全ページ見ていただけるともっと分かりやすいのかなと思います。

では、森町はどうしていくかという、それぞれ議会カフェで聞いた意見を個人で持って解決というか、対処していくのがちょっと今まで何もなかったの、そういうやり方になってしまっていたのかなと思ひまして、では森町はどうしていこうか、いただいた意見をどうしていこうか。ただ、出張議会カフェのほうは先ほども伊藤委員が言われたように意見交換会の実施要領というのがありまして、これにのっとっていけばいいなと思うのですが、その食KING市とかでいただいた意見というのをさあ、どうしましょうかということなのですが、皆さん意見がありましたらお願いします。

○委員（千葉圭一君） それは、多分私も小委員会で意見を述べさせてもらった内容だとは思いますが、今回の視察研修で集めた、各いろんな町民から聞いて、例えば森町だと議会カフェとか、漁組とか、そういうところに行って出された意見を実は議運、ある町では議運に1回全部集約して、議運で各常任委員会に振り分けるのだそうです。振り分けたら、今度はその常任委員会で話し合っ、これは執行部側に質問をぶつけるとか、これは一般質問でぶつけるとか、先ほどおっしゃっていましたが、一般質問でぶつけるとか、あとはここでそのまま回答できるものは回答する。その回答の仕方が書面をもって回答するという、その町では言っていたのですけれども、具体的に今ここでどういうふうにするかという話を進めるには、かなり時間が必要だと思うのです。その意見をどうするかって、当然広報では載せますけれども、それ以外はどうなのという。ちゃんと議会として、議会

なのか、この広報広聴常任委員会なのか分からないですけれども、仕組みができていないと、今どういうふうにしますかと言われても多分前へ進まないのではないかなと思うのですよね、この意見を吸い上げるにしても。

私は、もし必ず1か所窓口があって、そこで振り分けて、各委員会でもんで進めていくというのが一番スムーズな流れではないかなと。その個人でやらないで、議員個人でやらないでやったほうがいいのではないかなという意見なのですけれども。できれば、議会だよりは書面みたいなものですから、それはそれで出して、それ以外のものについては出された書面にしてちゃんと提出するとかというような方向で進めていったらどうかというふうな考えはあるので、次回の議会改革のときにその内容を提案しようかなとは思っていたのですけれども、今はそういう内容で進めていったらどうかというふうには思っています。ただ、この場で話し合うような内容であるかどうかは、私はちょっと判断つきにくいのですけれども。

以上です。

○委員（河野 淳君） ちょっと悪い言い方になってしまうかもしれないのですけれども、行政視察はやはり先進地に行くので、すごい先の取組の話しているのです、まねしたくなるというのはすごい分かるのです。ただ、今回行かせてもらったところの自治体もちゃんと議会基本条例というのを制定して、議会の方向性をちゃんと定めた中の取組の中にその広報広聴という部分でどういう姿で見せていくかというのをやった上での仕組みづくりだと思うのです。ここの方向性をちゃんと決めていないのに、どこかいいところをぽつんと持ってきて、これだけやろうと思ってもほかが駄目なので、結局その取組って長く続かないと思うのです。実際そこがよく見えるのは、ちゃんとその方向性を示しているから、その取組がちゃんと理にかなっていて、皆さんの了解を得やすいと思うのですけれども、それが例えばその一部分だけがいいからといってまねして、うちがよくなるかというのと、そういうわけではないと思うのです。

過去に栗山町の議会基本条例をつくったときの政策提言とかも過去に森町議会でやったことあるのですけれども、実際PDCAの一部分だけを引っ張り出してきているので、ちゃんと回っているかということ、なかなか全体を回っているというにはちょっと言いがたい部分も出てきていると思うのです。だから、いい部分はすごいよく見えるのですけれども、実際は森町で広報広聴の活動をどうしたいかという大もとを決めていくことがまずやることだと思うのですけれども、意見としてはちょっと千葉委員も言うとおりで、最終的にどうしていくかという根っこがないのに、いい部分のスキームだけ引っ張ってきても、結局それってまねしているだけで、方向性が決まっていけないので、進む方向性が分からないのに何かやれと言われても、やるのかと言ったら、やらない感じはすごいするのです。

○委員長（斉藤優香君） 私たちが今話そうとして、その方向性を決めたいと思っているのです。そのいただいた意見を、ではどうしていくかということを森町のやり方、これは参考なので、資料なので、こういうやり方もありますということなので、では森町はどう

していったら皆さんの意見が、いただいた意見を生かせるかということと話したいなと思いますので、皆さんそういう方向で、もし今時間がないという……時間がないので、この次までにどうしていくのが一番いいかということを考えていただいて。ただ、もう7月7日には始まりますので、そんなに長く時間はかけてられないのです。7月7日……

○委員（千葉圭一君） すみません、途中で。時間はかけるべきだと思います。別に7日やるから7日までだとか、9月1日もあるから9月1日までだとかではなくて、こういうものって一旦やっぱりきちんと話して、町民の皆さんにどうやっていただいた意見、要望を、それに対して答えて、ちゃんと明確に答えていくかということをつくるという重要なものだと思うのです。ただ議会カフェをやって意見を集めました、要望を集めただけで済ませてはいけないからやるのですよね、町民に対しても。それを、その姿勢を見せるのにちゃんと仕組みづくりとしたら慌てる必要はなくて、別に今回は今までどおりでも、次回はそれまでにしましょうとあって、あまり焦る必要はないのではないかなというふうに思っています。私の意見です。

○委員（河野文彦君） 今そういう様々な意見をどう取り扱うかというお話だったと思うのですけれども、僕の考え、議会カフェでいただいた意見は、いろんな意見を皆さん書いてきますね。それを議会でもんで、どうやって反応するかとやっていたら切りがないと思います。だから、議会カフェは、いただいた意見がもしなるほどなと思うのだったら、その話をいただいた議員が個々に対応すればいいだろうし、議会全体でこれ1件ずつもんでいったら切りなくなってしまうと思う。そもそも何か気軽に議員とおしゃべりしませんかぐらいの感覚で始めたことだと思うのです。要望を受ける会、場ではないと思うので。ましてや、あいつを首にしろとか、そんな意見まで来るわけでしょう。防災無線の声が気に入らないとか、そんなところまで一々、そんなのを取り扱うべきかはあれだろうけれども、だから議会カフェでいただいた意見は、だから前に後ろにこんな意見がありました、これに対しては一般質問しましたとあってあったではない。あれぐらいでいいのではないのかなと思うのです。あとは個々が対応して、もし連絡先分かるようであれば、後でこうですとあって連絡すればいいのではないかなと思う。ただし、団体との意見交換会とかをやったときは別だと思います。それは、みんなでもんでどうしていくかというのは改めて検討してもいいと思うのですけれども、議会カフェに関してはそんなに重い要望を受ける場所にしないほうがいいのではないかと私は思っていました。

○委員長（斉藤優香君） 私もそういう感じで、ここまで議会だよりとかでお知らせをして、個人で受けたものをできる範囲、答えられるものは答える、答えられないものはきちっと行政のほうに聞くとか、そういう形でまあまあやれていたのですけれども、やはり1人でいっぱい受けてしまって、どうしていいか分からないという方も中にはいるのです。であれば、やはりある程度の、これは自分でちょっと対応できる、返事はできるけれども……ではなくて、個人で答えてはいけないということを決めたほうがいいのかなと。その場で、簡単なものは受け答えはできると思うのですけれども、個人で持ってしまうと

これから先、負担になっていく。だったら、もう議会カフェ行きたくないやと。俺ばかり話聞いて、私ばかりとかとなってしまうても困るので、やはりある程度のガイドラインはつくったほうがいいのかなという思いでこの提案をさせてもらったのですけれども。

○委員（河野文彦君）　たくさん抱えてしまったら大変だとかって、それぐらい自分で判断して、これは取り上げるべきだとか、これはその場でうまくごまかすとか、逆にそれぐらいの能力がないと議員なんてやっていられないと思いますよ。そんないっぱい言われて、全部抱えてどうしようと悩んで、そんなことだったら。そこは、もうちょっと議員として判断できるようでなければ駄目だと思うので。

○委員（千葉圭一君）　すみません。議員の資質がどうなのかというふうな話も出てきていますけれども、その議会カフェに来て、ふだん同じような人かもしれないけれども、でも私が知っている私の自分の支持者の方々と話しすれば、いろんな意見を言ってくれる方って同じ方々ばかりなのですよ、意外と。だから、そういう意見というのは、自分の個人で判断するというのはやっぱりまずいと思うのです。町民がそうやって意見を言ってくれるのだったり、要望を言ってくれるなら、やっぱり1回受けるべきだと思うのです。その上で先ほど言った1人が例えば4つも5つも受けてしまうと、自分ではもう無理だという。でも、それだったら議会カフェに欠席してもいいやと、もう行きたくないとなってしまうたら、それこそ本当に大変なことになってしまうので、やっぱりそれはちゃんと議会、どういうふうな仕組みか分からないですけれども、委員会でやるのか、どこの委員会でやるのか分かりませんが、ちゃんと振り分けて、きちんとこれは個人でいいねとか、その委員会の個人でいいねとか、これは委員会でもんで返事しましょうとか、そんなふうに振り分けるような仕組みづくりはやっぱり私は必要だと思うのですけれども、議員カフェでも。

以上です。

○委員長（斉藤優香君）　たくさんの意見をいただいて、今ちょっと決められない。これからその仕組みづくり、ちょっと皆さんが安心して議会カフェなりなんなりに行ける、参加できるような仕組みづくりは考えていかなければならないと思っていますので、今年、今年度の議会カフェを体験してみてもいいと思いますので、考えていきたいなと思いますから、皆さんちょっとご協力いただければなど。今回意見をいただいて、ではこれはどうしたらいいかとかという悩みも出てくると思いますので、それは一応例えば、私は皆さんからいただいた意見は全部集約して、この議会だよりとかというのに振り分けたりしてはいるので、それを議運の委員長なりなんなりと相談するとかということも考えられなくはないので、皆さんが安心して議会カフェに参加できるような仕組みづくりしていきたいと思っていますので、ご協力よろしくをお願いします。

○委員（東 隆一君）　私が言ったみたいに、今協力してくださいというのは分かるのだけれども、私がさっき言ったみたいに何人ぐらいが最低でも要するにその議会カフェに必要なのかと。都合によっては、3人しかいなくなったときもある。3人とか、そういう人

数の少ないときも出てくる可能性あるわけですね。ですから、最低限でも大体このくらい的人数が必要だとなると、どうしてもそこには出席してくださいというような形を取っていかないと。

私が先ほど質問したそういう前回やったときに、実際にはテントには誰もいなかったわけです。町民は、たくさん来ましたよと。そういう場合には、どういうふうにするのかと。そういう部分をきちっとある程度決めておかないと、ただ、はい、やりましたよという、また同じことを繰り返して、テントには誰もいませんよ、町民は来ましたよと。誰が意見を聞くのかという部分を何も解決しないで、ただ、はい、やりますか、やりませんかという話になって、一応やりますということが決まったわけですから、やるにしても最低でも要するに委員長はそこにいてもらいますよと。ほかの方もある程度、1時間だったら1時間そこにいてもらいますよと。6人だったら6人いれば、3人はそこに必ずいてくださいよというふうな形とか何とか取らなければ、また前と同じような轍を踏んで、誰もテントの中にいない。要するに町民は来ましたよと。だけれども、誰が対応するのかと、そういうところをきちっとある程度やるのだったら、やると決まったわけですから、そういうところもきちっとはっきり要するに決めておかないといけないのではないのかなと思いますけれども。

○議会事務局長（小田桐克幸君） 状況を見て判断する部分もあるから、そういうふうに決めるというような……

○委員長（斉藤優香君） そうなのです。テントには誰か彼かどっちかは役割で、野口議員と、副委員長と相談していましたと思っているのですけれども、いなければ個々の議員活動にもなりますので、これは改めて集約したときの人数にもよりますので、どうぞご協力よろしくお願いします。

7日は、9時から12時までとなっています。お時間、1時間でも30分でもいいので、皆さんぜひ顔を出していただければと思いますので、どうぞよろしくお願いします。いいですか、皆さん。ご協力ありがとうございます。

では、取りあえず議会カフェはやります。三業まつりもやります。皆さん、その後の中身はちょっと副委員長とも相談しながら決めていきますので、皆さんご協力よろしくお願いします。

議会だよりのほうも、もう一個あったのですけれども、議会だよりについてはこのままやっていきたいと思いますので、何か意見ありましたら、ばんばん出していただければ、個人的に。全然構いませんので、よろしくお願いします。

それでは、なければ町民からの意見の取扱いについてを終わります。

◎その他

○委員長（斉藤優香君） 次に、その他ですが、皆さんから何かありますか。

（「なし」の声多数あり）

◎閉会の宣告

○委員長（斉藤優香君） なければ、以上で本日の会議日程は全て終わりました。

会議を閉じます。広報広聴常任委員会は、これで閉会いたします。どうもありがとうございました。

閉会 午後 0時06分